

日本キリスト教団

京都教区ニュース

〒602-0917
 京都市上京区一条通
 室町西入ル
 TEL (075) 451-3556
 FAX (075) 451-0630
 E-mail
 info@uccj-kyoto.com
 発行代表者 望月 修治
 編集責任者 望月 守信

新企画【巻頭シリーズ】

教区にとどって私とは (1)

洛南教会 井上勇一

一、関わりの根拠

洛南教会に赴任して、六年目に入った。教会に招聘され、教会という枠組みに務めを委ねられた身にあつて、「私にとどって教区とは」は主体が決まっている故に明らかにしやすいが、その逆は少々戸惑いを覚える。そこで、今私に関わる働きを通して、主題について綴ってみたい。

教会、教区、教団という枠組みにある日本キリスト教団は、教区を教団の代行事務を行う機関として捉え、そこに教会制を持たせていない。ただ、教区が教会の働きを総合的に補完する役割と位置づけられるのであれば、教団以上に教区の位置づけは大切となる。このような視点から信徒・教職が各種委員会の委員として、教区の働きを担っていると見え

るのであろう。

私は、二〇〇〇年頃から教区に関わりをもっている。当時は、関西セミナーハウスで仕事をしていたが、前議長の高佐原英一牧師から「教区の仕事を手伝ってくれないか」という誘いを受けてからである。当時、よく二人で教区内の諸教会を訪問した。私は、セミナーハウスの営業を兼ねての訪問であったが、佐原牧師は教区と教会との連携が円滑に進むようにと積極的に関わろうとしていた。その後、も洛西教会の柳井一朗牧師が加わり、教会訪問は積極的になっていったが、「顔の見える教区づくり」を目指していったようだ。佐原牧師はその後病気で倒れ、訪問が難しくなつたが、継続的に世代毎に教区に係わる若い人を育てたいという願いを、常日頃、話していたことを思い出す。

その後、二〇〇四年に正式に洛南教会の教師として就任し、教区の働きに関わってきたが、教職謝儀委員会での関わりが深いように思っている。また、現在は教職謝儀委員会、

教区改革検討特設委員会の活動を中心にその務めを果たしている。

二、京都教区の現状

以前、ある委員会で、「井上さんは、お金の視点から教区の問題を取り上げる」と言われた。教区の宣教を考えると、伝道、教育、社会という諸課題に関わることが明確にされている。いわば、財政的な視点は宣教の課題が果たされていく中で付随するものとして捉えられる。私も本来はこの視点で教区の予算は組まれ、執行されていくのが相応しいと考えている。

ただ、教区の現状は厳しい状況にあると考えている。一九九〇年以降、現住会員が減少する中で教会財政規模は増え続け、現在は、規模を減らしている状況になっている。教勢が増える中で、財政が拡大する。これが財政の健全化といえるのであるが、教勢が減少し、財政が拡大している。それが京都教区の現実である。極端な言い方をすれば、年金生活をする大半の会員が教会を支えていると言えるのではなからうか。

教会謝儀支援を受ける教会は、十二教会。昨年より二教会増えた。五〇〇万円位の予算を組む教会にとどって、教職謝儀は三〇〇万円から三五〇万円位である。教職の年齢が四十才から四十五才となれば、この謝儀額は高いとはいえない。このような教会で、役員が一

人召天したとする。年間三五〇万円の献金で教職を支えていたこの教会は、一人の役員が召天したことで、教職謝儀を払うことができなくなる。それだけに教会の予算は身動きのとれない状態となり、教区への支援を要請してくるのである。しかも、この教会が教区に支払う負担金は二〇〇三〇万円となる。このような教会が増えつつけているのである。

今、私はこのような教会の現状を少しでも変えていきたいと願っている。

三、教区にとって私とは

今後、京都教区に所属する洛南教会の一人として教区に関わろうとしているが、最善を尽くしたいと考えている。一教会員が何故に教区に関わるかと言えば、教区は教会を直接的に関与する外輪のように捉えている。外輪を整えることで内輪の教会も元気がでるし、その逆もある。内輪に所属するものが外輪に関わることは言わば必然なことであり、そうすることで外輪は動いていくように思っている。

★★★★★★★★★★★★

第七三回（合同後第四三回）

京都教区定期総会報告

同志社教会 望月修治

第七三回（合同後第四三回）京都教区定期

総会が五月四日～五日に洛陽教会を会場にして開催されました。今総会では、現在の教団執行部の姿勢に対する京都教区の基本姿勢をどのように定めるのかを課題としつつ、京都教区のこれまでの歩みを継承し、諸教会・伝道所・諸課題への取り組みにおいて相互の連帯を深め進展させて行くために、現在の教区活動の体制を見直し、検討することの必要性が提起され、協議された総会でした。

一、教区活動の見直しと改革の検討に関して
昨年度は教区改革について、教区改革検討準備小委員会で、これまでの教区の歩みについてのデータ分析や検討作業が重ねられました。検討過程の中で、教区のさまざまな課題が明らかになったことを踏まえて、「教区改革検討特設委員会」を設置して、教区活動の見直しと改革の必要性について検討することを内容とする議案「教区規則第三九条変更に関する件」が審議され、承認されました。今後二年間、教区改革検討特設委員会で、教区宣教方針、教区機構、教区財政についての改革の可能性あるいは見直しの必要性について検討し、その方向性と骨子を答申することになります。

二、教団への対応について

京都教区は、聖餐のあり方をめぐって北村慈郎教師（紅葉坂教会）に対して教団議長が発議して、退任勧告、戒規申し立てを行うこ

とを教団常議員会が決議したことをはじめ、諸問題をめぐる教団執行部の強権的な姿勢に対して、合同教会としての姿勢からの逸脱を問い、抗議してきました。そして二〇〇四年以降続けて来た教団問安使拒否を今回の総会でも行いました。

問安使については、拒否せずに教区総会の場で質疑を行い問題や課題がどこにあるのかを話し合うべきだとの意見もあり、対応をめぐって論議がなされました。そのことを受けて常置委員会でも話し合われた結果、今回の拒否が確認されました。教団問題については、昨年十月の第三六回教団総会以後に常置委員会のもとに設置された「教団対策検討小委員会」において検討が始められていますが、総会でも第一日目の夜に協議会「教団問題をめぐって」―京都教区と教団の関係を考える―が行われました。谷口ひとみさんが一九八八年第二五回教団総会以降の教団の歩みと京都教区の歩みをたどりながら、教団の姿勢の変化、それに対する京都教区の対応について発題して下さいました。「さまざまな立場」に立つ姿勢が失われていきつつある教団の現状に対して、教区のあり方を協議し、明確にしていくことが求められています。その検討を進めます。

三、諸課題への取り組みについて

今回の教区総会に提案された議案審議の中

で、指摘されたことの一つは「当事者性」ということであつたと受けとめています。教区では各部、各委員会、各特設委員会、各小委員会他で、さまざまな課題への取り組みが行われ、進められています。いくつかの課題については議案が提案されましたが、その審議の中で、各自がそれぞれの課題を自分の課題として向き合い取り組んでいるのかという「当事者性」が問われました。託された働き、役割を担うにあたって、自分の課題として向き合う姿勢を確認したいと思っています。

四、選挙について

今総会では教区三役、常置委員、各部・各委員会・各特設委員会委員が選任されました。常置委員は、総会での選挙結果から二名に辞退者がありましたので、第一回常置委員会でその二名の交替と、教区規則第二九条(二)の規定により三名、さらに常任常置委員が選任されました。

〈教区三役〉

議長 望月修治(同志社)、副議長 井上 勇一(洛南)、書記 韓 守信(長岡京)

〈信徒常置委員(九名)〉

奥野カネコ(膳所)、志賀 勉(紫野)、川上 穰(錦林)、平田眞貴子(平安)、谷口ひとみ(八幡ぶどうの木)、谷岡孝子(紫野)、原田 潔(大津東)、造田弘司(水口)、押本年眞(丹波新生)

〈教師常置委員(八名)〉

山田真理(上鳥羽)、入 治彦(京都)、大澤 宣(紫野)、竹ヶ原政輝(丹波新生)、川上 信(八日市)、横田明典(近江金田)、谷村徳幸(水口)、野波 洋(福知山)

〈常任常置委員(四名)〉

入 治彦(京都)、志賀 勉(紫野)、谷口ひとみ(八幡ぶどうの木)、原田 潔(大津東)

五、議案について

今教区総会で法定議案に加えて、承認された議案(建議案一件を含む)は以下の通りです。

○ 同性愛者差別問題への取り組みを推進する件

○ 「京都教区宣教基本方策」一部改訂に関する件

○ 教区規則第三九条変更に関する件

○ 「京都教区センター」法人化に関する件

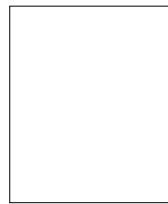
○ 不登校・ひきこもりの青少年やその家族と共に歩む小委員会を宣教部のもとに設置する件

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

准允を受けて

同志社女子大学 才 藤 千津子

私は、若い頃に福岡のこの電話スタッフ



として自殺を考える人々の声を聴く仕事に携わったことから、現代人の苦悩に寄り添う牧会に携わることに使命を感じ、七年間の社会人生

活の後、同志社大学神学部編入学いたしました。それから後は機会を与えられ、日米両国で教会カウンセリングやチャレンシイの分野で訓練を受け、研究と牧会に従事してまいりました。特に、米国の病院チャプレンとしての訓練、虐待された女性たちが暮らすセーフ・ハウスでの仕事、人種差別と闘ってきた日系人教会での牧会を通じ、差別や貧困という複雑な問題を抱えた現代アメリカ社会での宣教のあり方に多くを学びました。同時に、米合同教会に属する教会で、牧師として働く準備をさせていただきました。

二〇〇四年に米国より十年ぶりに帰国いたしました。そのおり、日本がかつてのバブル期の活気を失って沈み込んでいることを知りました。一九九八年以降、自殺者数が年間三万人を越える異常な事態が続いています。

帰国後は、群馬県の新島学園短期大学、昨年よりは同志社女子大学などに働きの場を与えられ、若い人たちに聖書とキリスト教を教え、キャンパスでの牧会に携わってまいりましたが、その中で、多くの若者が将来への不安と

孤独感に悩んでいることも知りました。私は授業で自傷行為や自死の問題などを取り上げますが、若い人々の反応の鋭さと切実さには深い危機感と責任を覚えます。このような状況を考えました時、人々の魂の喪失感を埋めるものは神の愛であり、日本で人々と共に折りつつ宣教に携わることが私の召命であると確信するようになりました。

日本社会と日本の教会の将来と、世界への責任を考えると、若い人々の魂を養い、彼らを主にある生き方へと導く宣教・牧会には急務と考えます。また、キリスト教教育とキャンパスでの教会の業は、地域の教会のご理解とお祈りによって支えられていることはいうまでもありません。昨年から同志社女子大学での教務教師に加えて、今回、幸いにも日本基督教団高の原教会の兼務担任教師として奉職させていただくことになりましたことを心から感謝しています。教会に集まってくる青年たちの活動と、それを温かく見守り支えようとしている教会の業に参加できるのは、私の心からの喜びです。

神から与えられた場所を生かし、主イエス・キリストと聖霊と教会の人々とに導かれ、日本基督教団の教師として、私が受けてきた神の愛を人々に伝え人々の魂を養い導く働きに参加してゆきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いたします。

准允を受けて

同志社小学校・京都西田町教会 中川好幸



このたび、同志社小学校の宗教科教員という立場での教務教師、また、京都西田町教会の伝道師として就任することになりました。

私の職歴のほとんどは、中高生相手の英語科教諭という立場のものでした。キリスト者として、一人の教員としてその職務に携わる中で、自分の中では、一つの教科を教えるというよりは、トータルな「生きる力」を示していきたいと思うようになり、仕事の傍ら、二〇〇一年より同志社大学大学院神学研究科に学びはじめ、来るべき時の備えをしてきました。その間、修養会講師に招かれたり、教会で信徒として説教の務めにあたったりするうち、自分がやるべきこと、そしてやりたいことはこのようなことなのだという思いが強まってきました。二〇〇五年に神学研究科を卒業後、学校を退職し、新たな道を模索することになりました。当初は、学校現場には何らかの関わりを持ちつつも、教会をメインのフィールドにすることを考えていましたが、これも神の導きからか、学校での宗教科の教

員という立場が与えられ、その中でその学校に来なければキリスト教に出会う機会のひとつもなかったような児童やまた保護者を対象にして、前述した「生きる力」を礼拝や宗教科の授業、またさまざまな宗教行事を通して伝えることにも喜びや使命を見出し、本務としては学校というフィールドで当面の間働いていくことを決意しました。

そして、教会の事情から、補教師試験後も二年間、信徒の立場として説教の務めや役員として奉仕してきた京都西田町教会においても、伝道師としての働きを通して教会を支えていきたいと考えるようになりました。自分にとっては、教会の外での働き、また内での働き、どちらの働きもとても大切に考えています。特に礼拝と牧会の相互作用というものに特別な関心を抱いており、今後もその分野での学びを続けていきたいと考えています。そして、これからの働きにおいては、何よりも一人一人を大切に、小さな事柄をおろそかにせず、その務めにあたっていきたくと思っています。欠けの多い者ですが、神の憐れみによってゆるされた存在として歩みたいと思っています。また、時を同じくして、京都西田町教会では、信岡茂浩牧師が急遽丹後宮津教会に招聘されることになり、主任担任教師代務者としての任にもあたることになりました。教区の皆様方にはさまざまなにお支え、ご助

力をただかなければならないと思います。どうぞ、これからもよろしくお願いいたします。

Soli Deo Gloria

桂教会 池 明 高



神様の温かな眼差しを感じるときがある。拙いながら楽譜の音符をたどって指を動かし、響きの中にあるとき。

神が創造された美しいものを目にし、その形を描くとき。必要とするもの、求めるものが与えられていることを知るとき。なによりも兄弟姉妹と祈りをあわせ、主の御名を賛美しているとき。

按手を受ける前日、教区総会の中で隣人を批判し、自分の思いや立場の正しさを語ることに始終される牧師や信徒の姿を見た。主の与える平安が心に満たされていない。敵を愛するどころか敵を産み出している。隣人との関係の中に主が立ち上がってこない。私もかつて人を批判したり受け入れたりすることが出来ない人間だった。しかし、御言葉によって己の傲慢さ、心のかたくなさを打ち砕かれ、神様に与えられた隣人を受け入れることができる者に変えられつつある。

牧師を含めキリスト者の「品格」が（むやみに使う言葉ではないが）問われていると思う。私が以前いた教区でも総会等で目を塞ぎたくなる光景がしばしばあった。本人は間違いを正すつもりなのだろうが、実は相手の人格を否定しようとしている。自分の正しさを主張し、受け入れられなければ罵詈雑言である。みな自分が神様になっている。そんな人々の表情は決して美しいものではない。思わず鏡で自分の顔を確かめる。御言葉という鏡で騒がしい。受洗し主に結ばれた者が聖餐によってそれを確信するという意味で今まで守られてきた。しかし、いつの間にか教憲教規も軽んじられ、確信犯まで現れる。隣人を愛せという主の掟すら守られないのは当然かもしれない。確かに教会個々の事情があり、また教憲教規や教会の歴史が決して絶対ではない。教会内の牧会的配慮として対応すればよい。得意がって表沙汰にする必要はない。自分たちが正しいと考える傲慢さは捨てねばならない。いずれ神が裁かれる。教憲教規を守っている、歴史を重んじている教会に動揺を与えるようなことをして良いはずはない。隣人を愛するものはその配慮もできるはずである。

教憲教規が問題なのではない。それを改めたとしても決して問題解決にはならない。変えなければならぬのは自分自身である。本

気で相手の立場を受け入れる、理解する姿勢がないのに、対話をしても前に進むどころか自己満足で終わるだけである。どんな物事も良い面、悪い面がある。その評価、判断は見る立場によって変わる。両者を十分理解した上で、すべての隣人との間に、真ん中に主が立たれるよう祈りをもって臨めば、主は必ずよいように取り計らって下さる。

按手を受け、教会の兄弟姉妹とともにその喜びを分かち合った。これからこの教会、この群れを守っていく決意を新たにしたい。教会また信徒一人ひとりの平安を乱そうとするものに対し、内と外に常に目を向け、主のように自ら砦とならなければならない。礼拝前に心を整えお茶を点でているとき、礼拝も同じ総合芸術の面を持っていることに気づいた。すべてが調和の中にある。その中心にあるのは主の見える言葉と見えない言葉。礼拝において生きる復活の主に出会う、御言葉が生き立ち上がる、それはすべての中心に主がおられるとき。自分を中心に置かず、いかに主を、御言葉を私たちの中心に迎えて礼拝を守ることが出来るか。讚美の響きの中で、キリストの香りの中で、あたたかな眼差しを感じて、心に平安を覚えた。

按手を受けて

丹後宮津教会 信岡茂浩

「正教師にさえなつたら。」敬愛する先生方からのアドバイスに必ず伴う一言に「正教師になるまでは」と自分に言い聞かせた日々が過ぎ、ようやく遠のきはじめてこの頃です。

「合格しても任地はないぞ」という囁きを振り切り、Cコースの三年を経て補教師になりましたが、もし任地という客観的現実の対応がないままなら、召命は独り合点の思い込みすぎなかつたのかと疑惑に揺れました。ようやく話のあった関東の三教会はそれぞれ東京神学大学の人に決定したと耳にした頃に、所属していた教会で無給の伝道師として受け入れてもらい、准允を受けました。

伊豆での新任教師オリエンテーションは、さながら砂漠にオアシスのような経験でした。教派その他で大きな違いがあつても全国に仲間のような人たちがこれだけいるということだけで、それまで奴隷待遇の労働現場が毎日だった私には、とても信じられないような世界でした。

しかし、帰ってきて京都駅からバスに乗る

と、バイト先の二台車が真横に来て、運転手の直接の上司と車窓で数十cmの「ニアミス」をしました。伊豆からの大切に持ち帰つた淡い希望が粉碎されました。

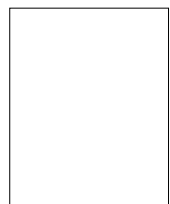
次の春に京都西田町教会で主任担任教師となり、教会のなかを怪我の足で文字通り何回も転倒しながら、たくさんの人に助け起こしてもらつて、ヨチヨチ歩きを始めました。以来二年間あまり、挫折と失敗の繰り返しでしたが、そうしたなかで主日礼拝に立ちつつも正教師試験を乗り切れたのは、ひとえに献身的に助力ご奉仕くださった周囲の皆様のお陰です。按手は、辞任、引越越し、就任の慌しさとの混乱の只中で翻弄されながらも無事に受けることができました。本当に感謝です。

今は、丹後宮津教会という新たな任地に遣わされています。当地の生活にまだなかなか慣れませんが、教会のなかでは平安に仕えることができています。六月最初の礼拝出席が二名で、牧師一家を引き算していなかったのが、大きな誤算でした。

ひろい空にトンビの声がよくひびく毎日です。

按手を受けて

京都復興教会 深谷与那



主のみ名を賛美いたします。いつもお祈りいただいている皆様には、心より御礼申し上げます。過日の京都教区総会において、望月修治牧師の司式により按手礼を、続く五月十日に京都復興教会において、清水潔牧師の司式のもと就任式を執り行つていただきました。京都・山科での暮らしは、四年目を迎えました。幼稚園で例えれば、年中組です。数年前は赤ちゃんであつたような者であります。

昨年、私が正教師の試験に合格した時、一人の教会の信徒の方が、ニコニコしながら、肩をたたいて、そっと「これからは、本番や」と激励(?)してくださいました。三十年、四十年、五十年と、教会と歩みを共にしてこられた信仰の先達の言葉の厚みを感じました。

按手を受けて、明確に気づかされたことがあります。それは、本当に自分を大切に思つてくださっている方たちがいてくださるということ。そして、その方たちを通して、私に迫ってきてくださる主イエス・キリストの愛の広さ、高さ、深さがあるということ。す。

教会の方たちが祈り、支えていてくださることはわかっているつもりでいました。けれ

ど、何時間もタクシーにのって駆けつけてくださった教会の方、式には出られなかったからとわざわざお祝いを言いに来てくださった町内の親子、忙しい時間を割いて来てくれた家族。そのひとつひとつの行動をおして、隠し切れない暖かさがひしひしと伝わってきました。それは、ありがたいという気持ちを超えて、一種の畏れをも感じさせるほどでした。それほどに、主の愛は力強いものでした。本音で相手を大切にすることの強さを教えていただきました。

京都という土地は、たいへん良い土地です。けれど、東京育ちの私にとっては、時に自分が「寄留者」であることを感じずにはいられないことも事実です。それは、今も無いとはいえませんが、気づかれにくくなった分、その寂しさはこれからも、かえって大きくなっていくものなのかもしれません。

けれど、そんな私がここまで愛されている、本当に大切にされていると知ったとき、涙が出るような感謝と新しい力が不思議に沸いてくることを感じました。

みことばに脈打ち、私の体験の中にも実現した、この新しい命を語り伝えるために、精一杯働かせていただきたいと願っています。

★★★★★★★★

【京都教区 各部委員名簿】

〈常置委員会小委員会〉

- セクシユアル・ハラスメント問題小委員会
志賀 強、谷口ひとみ、中井正子、木下雅子、望月修治、教師部一名、「教会と社会」一名

○教区センター運営小委員会

- 望月修治、大澤 宣、月下星志、マーサ・メンセンデイク、平田真貴子、塚本誠一、井上勇一、韓 守信、原田 潔

○教区史編纂小委員会

- 望月修治、柳井一朗、井上勇一、韓 守信

○震災対策小委員会

- 望月修治、横田明典、野波 洋、入 治彦

○宣教基本方針・方策検討小委員会

- 望月修治、井上勇一、奥野カネコ、押本年眞、韓 守信、造田弘司、前川 裕、宮田 誉夫、宣教部一名

○同性愛者差別問題小委員会

- 川上 穰、足立麻子、井上勇一、入 順子、大山修司、奈良いずみ、横田明典

○教団対策検討小委員会

- 望月修治、井上勇一、押本年眞、谷村徳幸、韓 守信、府上征三、山田真理

〈宣教部〉

- 谷村徳幸、野波 洋、横田明典、入 治彦、俣田浩一、谷岡孝子、井上勇一、大山修司、

- 片岡広明、竹内 宙、千葉宣義、永島鉄雄、堀江有里、望月修治

〈教師部〉

- 人見 勝、川上幹太、入 順子、今井牧夫、上林ルツ子、川上 信、田代英樹、浜本京子、深谷与那人

〈財務部〉

- 原田 潔、奥野泰彦、田中義久、中尾義人、八木茂夫、吉田耕二郎

〈教職謝儀委員会〉

- 井上勇一、志賀 勉、谷岡孝子、入 治彦、奥野カネコ、木下雅子、造田弘司、中尾義人、野波 洋、原田 潔、横田明典、宣教部一名

〈アジア宣教活動委員会〉

- 大澤 宣、井口智子、大塚 慎、北島文子、金 度亨、木村良己、竹ヶ原政輝、月下星志、平田真貴子、マーサ・メンセンデイク

〈「教会と社会」特設委員会〉

- 竹内 宙、谷村徳幸、渡辺誉一、児玉寿子、大山修司、勝山久仁子、川上 信、千葉宣義、信岡茂浩、朴 実、前川 裕、松岡由香子、矢島哲夫、山田真理、山元重夫

〈性差別問題特設委員会〉

- 堀江有里、中井正子、志賀 勉、井口智子、宇山 進、谷口ひとみ、富田成美

〈障がい者問題特設委員会〉

永島鉄雄、奈良いずみ、奥村直彦、元森淳子、足立麻子、石田輝美、上田能子、上森俊明、木安透、眞鍋清子

〔部落差別問題特設委員会〕

谷本一広、片岡広明、川上穰、広野京子、宮田登貴子、足立麻子、井上勇一、今井富佐三、川上幹太、清島恒徳、関雅人、鳥井新平、宮田誉夫、村上宏、横田明典、渡辺誉一、渡辺玲子

〔合同〕問題特設委員会

竹ヶ原政輝、俣田浩一、相見泰恵、川上幹太、小柳伸顕、谷岡孝子、韓守信、府上征三、望月修治

〔教区改革検討特設委員会〕

井上勇一、韓守信、入治彦、大澤宣川上信、小柳伸顕、志賀勉、谷口ひとみ、谷村徳幸、野波洋、原田潔、望月修治、山田真理、横田明典

★★★★★★★★★★★★

【お知らせ】

特別融資貸出規定

教職謝儀委員会が取り扱います。

目的 教師の家庭で出産、入院、入学、慶弔等のため、まとまった資金が必要になった時に貸し出すことを目的とする。

必要になった時に貸し出すことを目的とする。

貸出限度額 一件 三〇万円までとする。

返済年限 二ヶ年以内とする。

利子 利子は取らない。

貸出件数 五件までとする。

貸出申請 教師本人が行うものとする。

援助資金

宣教部で取り扱う資金援助等の制度には、以下のようなものがあります。申請用紙は教区事務所にありますので、お尋ねください。いずれの場合も、宣教部委員会で審査し、承認を経てからの執行となります。

会堂・牧師館建築修理貸出基金

限度額一件五〇〇万円。二年間無利子。二年を過ぎると年二%の利子つきで返済します。なお、二〇〇万円を超える場合は、常置委員会で審査します。

互助伝道

① 毎年度末までに、特別伝道集会などのために援助を申請します。各教会・伝道所一件に限り。一件につき上限を一〇万円とします。総額三〇万円。

② 隠退教師講壇応援謝礼補助

主日礼拝の講壇に隠退教師の応援を依頼するための補助です。一件五千元。各教会・伝道所、年三回程度までです。

宣教支援金

主任担任教師以外の教師で教区宣教基本方針に沿った働きを担う教師が、各委員会等の

推薦状を添付して申請します。毎年総額二〇〇万円まで。申請期限は、前年度三月末日までです。

【宣教部より公募のお知らせ】

左記、協議会・集会への参加者を公募します。教区推薦となりますので、参加費は教区が負担します。希望される方は、宣教部委員長（谷村、〇七四八―六二―〇三二九、tani.n.2000@nifty.com）までご連絡ください。第四〇回日本基督教団開拓伝道協議会 期日 二〇〇九年九月一日（火）〜三日（木） 主題 「ここからいっしょに」

〜想像力を創造力へ〜 ※切は、七月一五日（水）です。詳細は、お問い合わせください。

編集後記

京都教区の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。いつも教区の働きをお支えくださり、心より感謝を申し上げます。バタバタしつつも、何とか『教区ニュース』発行へと辿り着きました。今回から、巻頭シリーズ「教区にとって私とは」が始まりました。より素敵で楽しい『教区ニュース』を目指して、精一杯、ご奉仕させていただきます。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。イエスは主なり&シャローーム！ (H)